



Cisco Expressway CE1200 アプリケーション

インストールガイド

初版： 2019年10月

最終更新日： 2020年1月

X 12.5.5

はじめに

はじめに

変更履歴

表 1：設置ガイドの変更履歴

日付	変更内容	理由
2020年1月	Expressway と HUU ファームウェア 4.0(2) および 4.0(4) との互換性に関する既知の問題について、「必要なファームウェアバージョン」が更新されました。	ドキュメントの追加
2019年12月	<ul style="list-style-type: none">「概要」に「必要なファームウェアバージョン」を追加します。オプションキーの使用方法を明確化するため、「相違点」を更新します。	ドキュメントの説明
2019年10月	初回リリース	Expressway バージョン X12.5.5 と同時に公開されました

目次

はじめに.....	2
変更履歴.....	2
概要.....	5
必要なソフトウェアバージョン.....	5
必要なファームウェアバージョン.....	5
サポートされているシステムサイズ.....	6
相違点.....	6
詳細情報とトレーニング.....	7
ハードウェアコンポーネント.....	9
前面パネルのレイアウト.....	11
背面パネルレイアウト.....	13
のインストールの準備.....	15
安全にご使用いただくために.....	15
環境および電源仕様.....	15
開梱および準備.....	15
シリアル番号の確認.....	15
アプライアンスの設置.....	17
タスク 1：ラックへの設置.....	17
タスク 2：SFP ネットワーク接続モジュールの挿入.....	17
タスク 3：接続して電源を投入する.....	18
タスク 4：電源ステータスを確認する.....	18
Expressway コンソールへの接続.....	19
はじめる前に.....	19
シリアルポートを使用した接続.....	19
CIMC Serial Over LAN を使用した接続.....	20

はじめに

インストールウィザードを実行する	25
Expressway ユーザ インターフェイスにアクセスする	27
Web UI の使用	27
CLI の使用	27
次の手順	27
付録 1：トラブルシューティング	29
LED とコンポーネントの位置	29
LED の状態の定義	29
内部リカバリ パーティション (IRP) からのリセット	29
電力特性評価チェックによるブート アップ時の遅延	31
通知	32
テクニカル サポート	32
アクセシビリティ通知	32
Cisco の法的情報	33
Cisco の商標または登録商標	34

概要

概要

このガイドでは、CE 1200 アプライアンス/ハードウェアをビデオ ネットワークに設置する方法（含む：同アプライアンス/ハードウェアを準備して設置する方法と、基本的な初期設定を行う方法）について説明します。また、トラブルシューティングに関するいくつかのヒントも提供します。

注：同アプライアンスは Cisco VCS 製品をサポートしていないため、このガイドは Cisco Expressway シリーズの展開専用ガイドです。

必要なソフトウェアバージョン

CE1200 には Expressway ソフトウェアがプリインストールされて同梱されています。プリインストールされているこのソフトウェアを以降のサポート対象バージョンにアップグレードすることが将来必要になった場合は、そのようにすることができます（Cisco Expressway にインストールされているそのソフトウェアが最新かどうかを確認するには、<http://software.cisco.com/download/navigator.html> にアクセスし、Cisco Expressway に移動します）。

Expressway ソフトウェアの必要最小バージョンは、使用するアプライアンスのリビジョンによって異なります。これをシリアル番号から識別するには、次のようにします。

表 2 CE1200 アプライアンスでサポートされるソフトウェアの最小バージョン

Platform	シリアル番号	必要なソフトウェア
2 番目のリビジョンの CE1200 (Expressway が UCS C220 M5L にプリインストールされている)	52E1####	X12.5.5 以降
1 番目のリビジョンの CE1200 (Expressway が UCS C220 M5L にプリインストールされている)	52E0####	X8.11.1 以降

注意：システムでは以前のソフトウェアバージョンにダウングレードすることもできますが、表に指定されているバージョンより前のバージョンを実行するアプライアンスはサポートされていません。この要件は UCS C220 M5L ベースのすべてのアプライアンスに適用されます。

必要なファームウェアバージョン

CE1200 アプライアンスには、Intel X710 ネットワークカード用に、C220 M5 サーバにプリインストールされている特定の UCS ファームウェアバージョンがあります。これは、ホストアップグレードユーティリティ（HUU）ファームウェアパッケージ 4.0(2) および 4.0(4) 内の X710 ファームウェアに現在存在している既知の問題によるものです。これらのパッケージには、デュアル NIC カード用の X710 ファームウェアアップデートが含まれています。これにより、CE1200 に付属する 1Gb SFP トランシーバモジュールが X710 カードで機能しないようにすることができます。

Expressway で現在サポートされている X710 の唯一のバージョンは 0x80002A3C-1.812.1 となっており、それ以降のバージョンでは 1Gb SFP は使用できません。

概要

この問題は、新しい X710 ファームウェアの今後のリリースで解決される可能性があります。

サポートされているシステムサイズ

このアプライアンスは、大規模または中規模の Expressway システムをサポートしています。

Cisco Expressway-Cs でなく Cisco Expressway-Es として展開されるアプライアンスの場合、Expressway ソフトウェア内のシステム サイズのデフォルト設定を、オプションで大規模システムから中規模システムへ、またはその逆方向に、変更することができます。

相違点

既存の CE500、CE1000、または CE1100 アプライアンスを展開している方向けに、この項では CE1200 における違いをいくつか示します。

- CE1200 は、Cisco Expressway シリーズの製品範囲で使用するように設計されており、Cisco VCS 製品をサポートしていません。リリースキーがプリインストールされた状態で出荷されます。
- 従来のアプライアンスとは異なり、CE1200 は Cisco Expressway-C または Cisco Expressway-E として動作する単一の多目的サーバです。デフォルトでは、常に、Expressway-C がプリインストールされた状態で出荷されます。このサーバを Expressway-E として展開するには、セットアップウィザードで **[タイプ]** オプションに *Expressway-E* を設定します（このウィザードは、Expressway Web ユーザーインターフェイスを最初に起動したときに実行されます。または、**[ステータス] > [概要]** ページから随時実行することもできます）。[トラバーサル サーバ (Traversal Server)] オプションキーは、Cisco Expressway-E に変更する手段として使用されなくなりました。
- このアプライアンスは、ほとんどのオプション キーがデフォルトでインストールされた状態で出荷されるようになりました。オプション キーを手動でインストールする必要がある機能は、次のものだけです。
 - デスクトップ システム ライセンス
 - ルーム システム ライセンス
 - RMS ライセンス
 - 高度なセキュリティ
 - Microsoft 相互運用性
- CE1200 は、モバイルおよびリモート アクセス (MRA) を 5000 まで登録でき、他の物理アプライアンスや VM ベースのシステムでサポートされている 2500 個の MRA 登録よりも増加しています。
- 2019 年 5 月から、CE1200 は、電源ケーブルおよび KVM ケーブルがデフォルトとして付属しないで出荷されるようになります。

CE1100 モデルが含まれている既存のクラスタに CE1200 アプライアンスを追加するには、その前に、セットアップウィザードの **[ステータス] > [概要]** ページで **[タイプ]** オプションを他のピア (Expressway-E または Expressway-C) に設定します。

概要

詳細情報とトレーニング

トレーニング：トレーニングはオンラインおよびシスコ指定のトレーニング会場で受講できます。提供するコースとトレーニングを行うオフィスの場所は、www.cisco.com/go/telepresencetraining に記載されています。

用語集：TelePresence 用語の用語集は <https://tp-tools-web01.cisco.com/start/glossary/> にあります。

関連資料

- このアプライアンスの設置に関する詳細は、[『Cisco UCS C220 Server Installation and Service Guide』](#) に記載されています。
- Cisco Expressway ソフトウェアの管理および操作は、「[Expressway Maintain and Operate Guides](#)」ページの『[Cisco Expressway Administrator Guide](#)』に記載されています。
- Cisco Expressway のクラスタの作成およびメンテナンスは、「[Expressway Configuration Guides](#)」ページの『[Cisco Expressway Cluster Creation and Maintenance Deployment Guide](#)』を参照してください。

ハードウェアコンポーネント

ハードウェアコンポーネント

CE1200 は UCS C220 M5L サーバをベースにしています。次のコンポーネントが含まれています。

表 3 CE1200 アプライアンスのコンポーネントおよび対応する UCS パーツ番号

項目	パート	数量
シャーシ	UCS-C220-M5L	1
プロセッサ	UCS-CPU-6134 (3.2 GHz 6134/130 W 8C/24.75 MB キャッシュ/DDR4 2666 MHz)	1
RAM	UCS-MR-X16G1RS-H (16 GB) DDR4-2666-MHz RDIMM/PC4-21300/シングルランク/x4/1.2 v	2
ハード ディスク	UCS-HD2T7KL12N 2 TB 12G SAS 7.2K RPM LFF HDD	2
RAID コントローラ	UCSC-MRAID1GB-KIT SAS RAID キット (C220M5I 用)	1
NIC	UCSC-PCIE-ID10GF Intel X710-DA2 デュアルポート 10G SFP+ NIC	1
	EXP-10GSFP-SR-MP (10 Gb SR ファイバー SFP)	2
	EXP-1GSFP-T (1 Gb 銅製 SFP)	2
PSU	UCSC-PSU1-770W	2
TPM	UCSX-TPM2-002 (トラステッドプラットフォーム モジュール 2.0)	1
SD カード	UCS-SD-32G-S (UCS サーバ用 32 GB SD カード)	1
その他	UCSC-RAILF-M4 (レールキット)	1
	UCSC-HS-C220M5 (ヒートシンク)	1
	UCSC-BBLKD-L2 (HDD スロットのブランキングパネル)	2
	UCS-MSTOR-SD (SD 用ミニストレージキャリア)	1
	アクセサリキット	1
	ベゼル	1

電源ケーブル

電源ケーブルは、Cisco からご購入いただけます。

警告： Cisco から電源ケーブルをご購入されない場合は、指定されたタイプのケーブルを使用する必要があります。

<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/products/collateral/servers-unified-computing/ucs-c-series-rack-servers/c220m5-lff-specsheet.pdf> [英語] を参照してください。

KVM アダプタ

KVM アダプタは、Cisco からご購入いただけます。

現場交換可能コンポーネント

次のコンポーネントは現場交換可能ではありません。

- ハード ディスク

ハードウェアコンポーネント

- 電源ユニット (PSU)
- ファンモジュール
- SFP ネットワーク接続モジュール (1 Gb と 10 Gb)

注意：互換性の問題を回避するには、提供された SFP のみを使用し、「[タスク 2：SFP ネットワーク接続モジュール](#)」(17)にある、SFP の他の要件を満たします。

返品または交換

なんらかの理由で返品許可 (RMA) の申請を開始する必要がある場合は、http://www.cisco.com/web/ordering/cs_info/or3/o32/Return_a_Product/WebReturns/product_Online_web_returns.html を参照してください。

前面パネルのレイアウト

前面パネルのレイアウト

この項では、前面パネルのレイアウト、LED、およびポートについて詳しく説明します。

図 1：Cisco Expressway の正面図

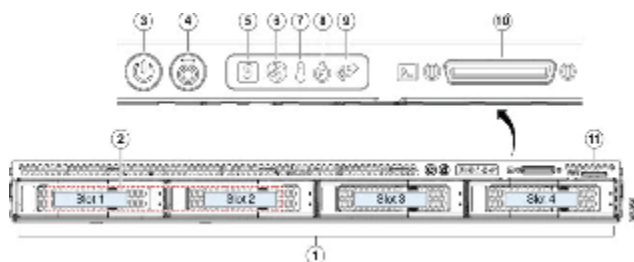


表 4：前面パネルの LED とコンポーネント

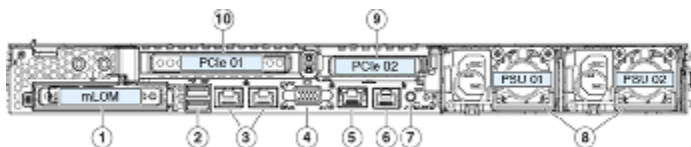
1	HD ドライブ（スロット 1 とスロット 2 のみを使用）
2	HD ドライブのアクティビティ/障害 LED
3	電源ボタン/電源ステータス LED
4	識別ボタン LED
5	システム ステータス LED
6	ファン ステータス LED
7	温度ステータス LED
8	電源装置ステータス LED
9	ネットワーク リンク アクティビティ LED
10	KVM コネクタ（USB/VGA 接続の場合）
11	UCS シリアル番号と MAC アドレスのためのプルアウト タブ

背面パネルレイアウト

背面パネルレイアウト

この項では、背面パネルのレイアウト、LED、およびポートについて詳しく説明します。

図 2 : Cisco Expressway の背面図



1	Modular LAN on Motherboard (m,LOM) カードスロット (未装着)
2	USB 3.0 ポート (2 スロット)
3	LAN3 および LAN4 (使用しないでください)
4	VGA ビデオ コネクタ
5	CIMC/専用管理ポート (1 Gb イーサネット)
6	シリアルポート (RJ-45 コネクタ)
7	背面 ID ボタン/LED
8	電源装置 (PSU 01 および PSU 02) 1 + 1 の冗長性を持たせるため、2 台目の電源装置が追加可能
9	スロット 2 : ライザー上のロープロファイル PCIe スロット (未装着)
10	スロット 1 : ライザー上の標準プロファイル PCIe スロット。2 基の SFP ポートを搭載 左ポートは Expressway インターフェイスで使用される場合には LAN1 (NIC1) となる 右ポートは同インターフェイスで使用される場合には LAN2 (NIC2) となる

インストールの準備

インストールの準備

安全にご使用いただくために

電気回路に関する安全手順と、通信装置の標準的な設置方法に精通している必要があります。CE1200 の規制準拠および安全に関する情報については、https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/expressway/install_guide/CE1200/RCSI-0362-book.pdf [英語] を参照してください。

環境および電源仕様

アプライアンス サーバの環境および電源の仕様を確認するには、<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/products/collateral/servers-unified-computing/ucs-c-series-rack-servers/c220m5-lff-specsheet.pdf> [英語] にアクセスしてください。

開梱および準備

アプライアンスの設置方法の詳細については、『Cisco UCS C220 M5 サーバ設置およびサービス ガイド』(https://www.cisco.com/c/ja_jp/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220M5/install/C220M5.html) を参照してください。

このガイドでは次の情報を提供します。

- 設置に関するガイドライン
- ラック要件
- 機器の要件
- スライドレールの調整範囲

シリアル番号の確認

Cisco Expressway アプライアンスは 2 個のシリアル番号を表示します。

- UCS のシリアル番号（形式：WZPXXXXXXXX）。ハードウェアのプルアウト タブと、Cisco Integrated Management Controller (CIMC) Web インターフェイスに表示されます。
- ソフトウェアのシリアル番号（形式：52ennnnn）。アプライアンスの上部パネルに表示されたり、Cisco Expressway Web インターフェイスまたは SSH を使って表示されたりします。

アプライアンスの設置

アプライアンスの設置

タスク 1：ラックへの設置

ラックへのアプライアンスの設置方法の詳細については、『Cisco UCS C220 M5 Server Installation and Service Guide』(https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220M5/install/C220M5.html) を参照してください。

タスク 2：SFP ネットワーク接続モジュールの挿入

CE1200 は、2 基の 10 Gb ファイバ SFP モジュールと 2 基の 1 Gb 銅線 SFP とともに出荷されます。

注意：互換性の問題を回避するために、SFP モジュールには次の制約事項が適用されます。

- このアプライアンスに付属している SFP のみを使用してください（M4 ベースの Expressway の SFP モジュールはこのアプライアンスでは再利用できません）。
- SFP を混在させないでください。2 個の 10 GB ファイバ SFP または 2 個の 1 GB 銅製 SFP を挿入します。

SFP には次の要件も適用されます。

- これらのポートは、PCIe 01 カードの指定された SFP ポートにのみ挿入します。最も左にある SFP ポートは、Expressway ユーザインターフェイス上の LAN1 に対応しています。
- SFP は速度と二重の自動ネゴシエーションをサポートしますが、1つの速度のみをネゴシエーションによって、SFP の指定された速度と全二重にします。これは、指定された速度と全二重をサポートするスイッチポートにそれらを接続する必要があるということです。
 - ファイバ SFP 用の 10 Gb 全二重
 - 銅製 SFP 用の 1 Gb 全二重
- 前の DMZ の実装のように 100 Mb のみをサポートしている環境に CE1200 をインストールする場合は、1 Gb ~ 100 Mb への速度のネゴシエーションを処理するためのスイッチが必要です。

1 Gbps の NIC 逆多重化ポートを搭載した中規模アプライアンス

1 Gbps の NIC を使用する中規模システムをアップグレードすると、Expressway は自動的にアプライアンスを大規模システムに変換します。その結果、Cisco VCS Expressway は大規模システムのデフォルトの逆多重化ポート（36000 ~ 36011）で多重化 RTP/RTCP トラフィックをリスンします。この場合、これらのポートはファイアウォールで開かれないため、Expressway はコールをドロップします。X8.11.4 から、[システム>管理設定] ページ ([展開構成] リストから [中] を選択) を使用して、システムサイズを手動で [中] に戻すことができます。この問題が X8.11.4 よりも前のリリースで発生した場合、回避策はファイアウォール上の大規模システムのデフォルトの逆多重化ポートを開くことです。

アプライアンスの設置

タスク 3：接続して電源を投入する

1. 最初に電源ケーブルをアプライアンスに接続してから、接地されている AC 電源コンセントに接続します。電源の仕様については、<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/products/collateral/servers-unified-computing/ucs-c-series-rack-servers/c220m5-lff-specsheet.pdf> [英語] にアクセスしてください。
2. CE1200 アプライアンスを初めて電源に接続する際は、電源ボタンを押す前に、5 分間はスタンバイ モードのままにしておきます。この間に、オンボードの CIMC がブートし、セルフテストを準備し、ハードウェア チェックを実行し、電源の特性評価テストの準備ができるようになります。十分な時間を取らないと、次のブートまで電源特性評価テストが延期されます。
3. アプライアンスの電源を入れます（電源ボタンは前面パネルの左上隅にあります）。システムがセルフテストを実行し、アプライアンスが自動的に再起動します。再起動は予測される動作です。
4. 初期電源特性評価テストのため、最初のブートには 5 分程度かかります。システムのそれ以降のブートにかかる時間は約 2 分です。電源特性評価テストの実行時に「*Performing Platform Characterization ...*」というメッセージが表示されます。
5. 以降のブートアップ時に電源特性評価テストを実行するとブート時に遅延が発生するため、**これを無効にすることが重要です**。この問題を回避するためにこのテストを無効にすることが、特にクラスタ化された環境では重要です。詳細については、「[付録 1：トラブルシューティング](#)」(29 の項を参照してください)。

タスク 4：電源ステータスを確認する

アプライアンスの前面にある電源ステータス LED を確認します。

- オフアプライアンスには AC 電力が供給されていません。
- オレンジアプライアンスはスタンバイ電源モードです。CIMC と一部のマザーボード機能にだけ電力が供給されています。
- 環境への配慮。アプライアンスは主電源モードです。すべてのサーバ コンポーネントに電力が供給されています。

消費電力の監視

CIMC には、消費電力を追跡するために使用できる電力監視ユーティリティが備わっています。

Expressway コンソールへの接続

Expressway コンソールへの接続

Expressway を使用するには、その前にいくつかの基本情報を設定する必要があります。それには、Expressway コンソールに接続し、セキュア インストール ウィザードを完了します。

次に示すいずれかの接続方法を使用できます。

- PC から Cisco Expressway のシリアル ポートへの、ケーブルによる直接接続。
- Serial over LAN で Cisco Integrated Management Controller (CIMC) ツールを使用したりリモート接続。

はじめる前に

1. 背面パネルの LAN1 ポートからネットワークにイーサネット LAN ケーブルを接続します。
2. インストール ウィザードを実行するために次の情報を準備します。
 - Expressway の IPv4 や IPv6 のアドレス、サブネット マスクおよびデフォルト ゲートウェイ アドレス。使用するアドレスについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。Cisco Expressway には、スタティック IP アドレスを使用する必要があります。
 - 定義済みのルートおよび管理者のユーザ アカウントに適するパスワード：これらのアカウントには強力なパスワードを使用してください。
3. CIMC 接続を使用する場合は、次の追加ポイントも適用されます。
 1. CIMC 接続には、スタティック IP アドレスまたは DHCP によって割り当てられた IP アドレスが必要です。
 2. 次に示す最小要件に適合するブラウザが必要です。
 - Java ランタイム環境 1.6 以降
 - HTTP および HTTPS 対応
 - Adobe Flash Player 10 以降

注意：初期インストールには、KVM または vKVM コンソールを使用できません。これは、セキュア インストール ウィザードが KVM コンソールに表示されず、VGA 出力ポートを表示しないためです。したがって、このウィザードは、Expressway のシリアル コンソールでインストールを完了するまで無制限に待機します。この状況から回復する必要がある場合には、下で説明しているようにシリアル コンソールに接続し、コンソールに対して Ctrl + D シーケンスを発行します。インストールウィザードが再起動され、続行できるようになります。

シリアル ポートを使用した接続

1. 付属の DB9 to RJ-45 ケーブルを PC (DB9 端) からアプライアンスの背面のシリアル ポート (RJ-45 端) に接続します。

互換性を確実にするために、アクセサリ パックに付属の青のシリアル ケーブルを使用します。これはクロスオーバー ケーブルであり、次のピン割り当てがあります。

Expressway コンソールへの接続

オス RJ45 のピン	メス DB9 のピン
1	8
2	6
3 TXD	2
4 GND	5
5 GND	5
6 RXD	3
7	4
8	7

2. PC のターミナル エミュレータ プログラム (たとえば PuTTY) を起動し、PC のシリアル ポートを使用するように次のように設定します。
 - ボーレート：115200 ビット/秒
 - データビット：8
 - パリティ：なし
 - ストップビット：1
 - フロー制御 (ハードウェアおよびソフトウェア)：なし
3. Expressway コンソールに接続した後、インストール ウィザードが表示されるまで待機してから、次の項「[インストール ウィザードを実行する](#)」(25 に進みます)。

注：ターミナルエミュレータセッションを使用後に閉じます。セッションを開いていると、システムの再起動時に問題が発生する可能性があります。

CIMC Serial Over LAN を使用した接続

CIMC は、C シリーズ サーバの管理インターフェイスです。CIMC はサーバ内で実行され、Web または SSH コマンドラインアクセスを使用したりモート管理、設定、および監視をサポートします。CIMC の詳細については、[CIMC コンフィギュレーション ガイド ページ](#)にある Cisco UCS C シリーズ Integrated Management Controller コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

CIMC パスワード要件

この項の説明に従って、CIMC のデフォルト パスワードを強力なパスワードに変更する必要があります。この操作は、DHCP アドレス指定を使用している場合には、CIMC Web インターフェイスに初めてログインするときに実行します。スタティック IP アドレスを使用している場合は、パスワードは初期ブート プロセス中に変更します。

CIMC パスワードには、以下の 4 つのカテゴリのうちの 3 つに属する文字が含まれていなければなりません。

- 大文字の英字 A～Z
- 小文字の英字 a～z
- 数字の 0～9

Expressway コンソールへの接続

- アルファベット以外の文字：!@#\$%^&*-_="

タスク 1：CIMC IP アドレスとパスワードの設定（1 回限り）

DHCP アドレス指定を使用している場合

展開で DHCP アドレス指定を使用している場合は、次の手順を実行します。

1. ネットワークを CIMC/専用管理ポート（背面パネルレイアウト（13）のポート 5）に接続します。
2. 次のいずれかの方法を使用して、USB キーボードと VGA モニタを接続します。
 - KVM アダプタ（三脚ケーブル）をご購入した場合は、CE1200 の前面にあるコンソールポートに接続して、アダプタにキーボードとモニタを接続します。

図 3：KVM コネクタが示されている前面パネル



- KVM アダプタなしでこのアプライアンスをご購入した場合は、キーボードとモニタをサーバ背面の適切なポートに接続します。
3. モニターで切り替えます。
 4. CIMC の正しいアドレスを配信するように DHCP サーバを設定します。MAC アドレスの場合は、プルアウト タブに記載されている MGMT アドレスを使用します。
 5. CE1200 に電源を投入します。
 6. モニターで起動プロセスを監視します。
 7. CIMC アドレスは、初期の電源投入時セルフ テスト フェーズでは画面の左下に表示されます。

結果：CIMC がこの Expressway で有効になりました。CIMC Web インターフェイスに初めてログインすると、デフォルトの CIMC パスワードを変更するように求められます。

8. 周辺機器とアダプタを切断します。

スタティック アドレスを使用する場合：

展開でスタティック IP アドレス指定を使用する場合は、次の手順を実行します。

1. ネットワークを CIMC/専用管理ポート（背面パネルレイアウト（13）のポート 5）に接続します。
2. 次のいずれかの方法を使用して、USB キーボードと VGA モニタを接続します。
 - KVM アダプタ（三脚ケーブル）を購入された場合は、CE1200 の前面にあるコンソールポートに接続し、アダプタにキーボードとモニタを接続します。詳細については、「KVM コネクタを示した前面パネル」（21）を参照してください。
 - KVM アダプタなしでこのアプライアンスをご購入した場合は、キーボードとモニタをサーバ背面の適切なポートに接続します。

Expressway コンソールへの接続

注：KVM コンソールは、Expressway にアクセスするためでなく CIMC を設定するために使用されます。

3. モニターで切り替えます。
4. CE1200 アプライアンスで切り替えます。
5. モニターで起動プロセスを監視します。
6. F8 キーを押して CIMC の設定を開始します。
7. デフォルトの CIMC パスワードを変更して、管理インターフェイスの IP アドレスを設定するように求められます。

1. **CIMC パスワード要件** (20 に記載された条件と一致する強力なパスワードを設定し、Enter キーを押します。
2. パスワードを変更したプロンプトで、もう一度 Enter キーを押してパスワードの変更を完了します。

注：「新しいパスワードがパスワード要件に一致しない場合でも、システムがその旨を通知しない」という問題があることが知られています。この場合、CIMC Web インターフェイスに最初にアクセスする (タスク 2) ときに、指定されているデフォルトの CIMC パスワードを使用する必要があります。そうすると、別の強力なパスワードを設定するように求められるので、設定すれば続行できるようになります。(これで初めて、パスワードが要件を満たしていない場合に、システムが正しくプロンプトを表示するようになります)。

3. デフォルトの NIC モードは [専用 (Dedicated)]、NIC 冗長性設定は [なし (None)] のままにしておくことをお勧めします。
8. 変更を保存するには、F10 キーを押し、Esc キーを押して終了します。

結果：CIMC がこの Expressway で有効になりました。

9. 周辺機器とアダプタを切断します。

タスク 2：リモート ホストからの CIMC の実行と Serial over LAN の有効化 (1 回限り)

1. Web ブラウザで、直前のタスクで設定した CIMC IP アドレスに移動します。
2. 次のいずれかを実行します。
 - スタティック IP アドレスを使用する場合は、タスク 1 で設定したパスワードを使用してログインします。

注：タスク 1 で設定した新しいパスワードが十分に強力でない場合、システムがその時点で通知を行わないという既知の問題があるため、**デフォルト**のパスワードを入力し、かつ強力な別のパスワードを設定するように求められるので、そうします。これにより、続行できるようになります。新しいパスワードは、**CIMC パスワード要件** (20 ページ) に記載されている条件を満たしている必要があります。

DHCP を使用する場合は、強力なパスワードを定義して、提供されたデフォルトのパスワードを上書きします。新しいパスワードは、**CIMC パスワード要件** (20 ページ) に記載されている条件を満たしている必要があります。

3. 左上隅にあるメニューの矢印をクリックします。
4. **[計算 (Compute)] > [リモート管理 (Remote Management)] > [Serial over LAN]** に移動します。
5. **[Serial over LAN]** プロパティで、**[有効 (Enabled)]** にチェックを付けて、**[変更の保存 (Save Changes)]** をクリックしますこの手順は、Serial over LAN がデフォルトで無効になっている場合に必要です。

Expressway コンソールへの接続

タスク 3：Expressway コンソールへの接続（必要に応じて随時）

1. ターミナルエミュレータで SSH を使用して CIMC IP アドレスに接続します。
2. デフォルトのユーザ名 *admin* と CIMC パスワードを入力して、Enter キーを押します。
3. **connect host** を入力し、Enter キーを押します。
4. これで、Serial over LAN により Express コンソールに接続されました。

インストール ウィザードが表示されるまで待機してから、次の項「[インストール ウィザードを実行する](#)」（25 ページ）に進みます。

インストールウィザードを実行する

インストールウィザードを実行する

システムが起動した後、PCのターミナルエミュレータプログラムにより Cisco Expressway のスタートアップ情報が表示されます。約 4 分後に、**インストールウィザード**が表示されます。

Cisco Expressway が接続時にすでに有効になっているのにインストールウィザードが表示されない場合には、Ctrl キーを押してから D キーを押せば、それにアクセスできます。ウィザードで問題が発生した場合や、間違った情報を入力した場合は、Ctrl + D を押して再起動できます。

インストールウィザードのプロセス

1. インストールウィザードによって表示されるプロンプトに従い、次を指定します。
 - IPv4、IPv6、または両方。
 - Cisco Expressway の LAN 1 IPv4 サブネット マスク (IPv4 を選択する場合)。
 - Expressway のデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
 - *root* ユーザアカウントのパスワード。
 - *admin* ユーザアカウントのパスワード。
 - Expressway Web UI を有効にする (推奨) かどうかを指定します。

アプライアンスを Express-E として展開する場合は、Web UI を有効にする必要があります。アプライアンスを Expressway-E として設定するのに、CLI を使用することはできません。
 - SSH に Cisco Expressway CLI へのアクセスを許可するかどうか。
 - タイムゾーン。デフォルトは UTC です。ウィザードでは、任意のゾーンを検索し、それに置き換えることができます。また、タイムゾーンは、後で Web ユーザ インターフェイスの **[システム (System) > 時刻 (Time)]** ページで変更することもできます。
2. ウィザードが完了し、インストールウィザードが完了しました (*Installation wizard complete*) のメッセージが表示されるまで待ちます。
3. Enter キーを押して処理を続行します。
4. 指定した設定が適用され、ブートが続行されます。
5. ブートが完了すると、Expressway を使用できるようになります。

注: ウィザードを完了すると、システム サービスが再起動します。これは正常な動作です。

LAN1 イーサネットポートに割り当てられた IP アドレスを使用して、Expressway ユーザ インターフェイスにアクセスできるようになりました (次の項を参照してください)。

Expressway ユーザ インターフェイスにアクセスする

Expressway ユーザ インターフェイスにアクセスする

この項では、Expressway の Web インターフェイスおよび CLI ユーザ インターフェイスにアクセスする方法について説明します。これらのインターフェイスは、インストール ウィザードを使用して有効にします。

Web UI の使用

Web ユーザインターフェイスにログインするには、次の手順を実行します。

1. ブラウザ ウィンドウを開いて、アドレス行に次のいずれかを入力します。
 - Cisco Expressway の IP アドレス（例：<https://10.0.0.1>）。アドレスは HTTPS として入力します。
 - Cisco Expressway の FQDN（例：<https://mydomain.example.com>）。
2. **[ログイン (Login)]** ページで、**[管理者ログイン (Administrator login)]** を選択します。
3. ユーザ名を *admin* とし、システム パスワードを使用してログインします。
4. Expressway の **[概要 (Overview)]** ページが表示されます。

詳細情報

Expressway の設定と管理の詳細（含む：インターフェイスの各ページ）については、Expressway のオンライン ヘルプおよび『[Cisco Expressway 管理者ガイド](#)』を参照してください。

CLI の使用

コマンドライン インターフェイスは、デフォルトで、SSH とシリアルポートを介して利用できます。

1. SSH セッションを開始します。
2. Cisco Expressway の IP アドレスまたは FQDN を入力します。
3. ユーザ名を *admin* とし、システム パスワードを使用してログインします。
4. ウェルカム メッセージが表示されます。

詳細情報

Expressway の CLI コマンドについては、『[Cisco Expressway 管理者ガイド](#)』を参照してください。

次の手順

『[Cisco Basic Configuration Deployment Deployment Guide](#)』に記載されている手順を Expressway ユーザ インターフェイスで実行して、Expressway をセットアップしてください。このプロセスについてはここでは簡単に要約しますが、その詳細を他のガイドで参照したうえで、次に進んでください。

Expressway ユーザ インターフェイスにアクセスする

1. 初めてログインすると、セットアップウィザードが起動します。このウィザードを使用して、展開の特定のライセンス要件を選択するとともに、必要に応じてデフォルトの Expressway-C 設定を Expressway-E に変更します。
2. セットアップウィザードが終了したら、続けて次のように Expressway を設定します。
 1. システムの設定（例：システム名、DNS 設定、サーバ証明書、NTP サーバ、SIP ドメイン）。
 2. ルーティング設定（例：変換、検索ルール、ゾーン）。
 3. エンドポイントの登録。
 4. システム検証チェック。
 5. 保守タスク（および、オプションの設定タスク）。

Expressway ユーザ インターフェイスにアクセスする

付録 1：トラブルシューティング

LED とコンポーネントの位置

このアプライアンスのパネルレイアウトについては、以下で説明されています。

- [前面パネルのレイアウト \(11 ページ\)](#)
- [背面パネルのレイアウト \(13 ページ\)](#)

LED の状態の定義

LED のさまざまな状態は、『Cisco UCS C220 M5 サーバインストールとサービス ガイド』
(https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220M5/install/C220M5.html) に定義されています。

内部リカバリ パーティション (IRP) からのリセット

Cisco Expressway CE1200 アプライアンスには、設定を再インストールするために使用できる SD カードがプリインストールされています。SD カードをリセットし、仮想ドライブを有効にしてから、Cisco Integrated Management Controller (CIMC) の KVM コンソールを使用して再インストールに進みます。リセットが完了したら、必ず仮想ドライブを再度無効にします。

はじめる前に

「[インストールウィザードを実行する](#)」ページの説明に従って、CIMC を設定してアクセスする必要があります。

タスク 1：SD カードのリセットと仮想ドライブの有効化

1. CIMC にログインします。
2. 左上隅のメニュー矢印をクリックして、**[ストレージ (Storage)] > [Cisco FlexFlash]** に移動します。
3. **[一般 (General)]** タブで、**[FlexFlash コントローラの起動/リセット (Activate/Reset FlexFlash Controller)]** をクリックし、表示されるポップアップウィンドウで **[OK]** をクリックします。リセットすることによって、FlexFlash コントローラを正常な状態にします。
4. **[仮想ドライブ (Virtual Drives)]** タブをクリックします。
5. **[ハイパーバイザ (Hypervisor)]** チェックボックスにチェックを付けます。
6. **[仮想ドライブの有効化 (Enable Virtual Drive)]** をクリックして、仮想ドライブを有効にするかどうかを確認します。

タスク 2：KVM コンソールを使用した IRP の再インストール

1. **KVM コンソール** を CIMC 内の該当アイコンを使用して起動します。
2. CE1200 に電源を投入し、プロンプトが表示されたら F2 キーを押して Setup と入力します。

Expressway ユーザ インターフェイスにアクセスする

3. [ブート オプション (Boot Options)] を選択し、[CiscoVD ハイパーバイザ (CiscoVD Hypervisor)] がオプションの 1 つとして表示されていることを確認します。

注：[CiscoVD ハイパーバイザ (CiscoVD Hypervisor)] が表示されない場合は、[UEI：組み込み EFI シェル (UEI: Built-in EFI Shell)] ブート オプションを選択して [CiscoVD ハイパーバイザ (CiscoVD Hypervisor)] に変更します。

4. 要求されたら、F6 キーを押して [ブート メニュー (Boot Menu)] に移動します。
5. ブート オプションとして、[CiscoVD ハイパーバイザ (CiscoVD Hypervisor)] を選択します。
6. 要求されたら、y と入力し、Enter キーを押して再インストールに進みます。
7. b と入力してリブートします。

このリブート中に仮想ドライブを無効にすることを推奨します（ただし、後のタスク 3 で行うこともできます）。今すぐ仮想ドライブを無効にするには、次のようにします。

1. F2 キーを押して、ブート設定を開始します。
2. [ブート オプション (Boot Options)] で [CiscoVD ハイパーバイザ (CiscoVD Hypervisor)] を選択して無効にします。
3. F10 を押して、設定を保存し、終了します。
4. システムのリポート時に [仮想ドライブ情報 (Virtual Drive Info)] タブに戻ります。[ストレージ (Storage)] の下の CIMC インターフェイスで、[ハイパーバイザ (Hypervisor)] チェックボックスをオフにします。[無効化(Disable)] をクリックします。
8. リポートが完了したら、シリアルを使用して接続してリセットを完了します。工場出荷時インストール ウィザードが表示されます。
9. 必要に応じて、アプライアンスのオプションキー（ルームやデスクトップの登録など）を適用することができます。このステージで適用しない場合でも、後で Expressway の Web UI または CLI を使用して適用することもできます。
10. プロンプトが表示されたら、Enter キー を押してシステムをシャットダウンします。
工場出荷時インストール ウィザードのフェーズが完了しました。
11. アプライアンスに電源を入れ、「インストール ウィザードを実行する」25 ページ）の手順に従って、カスタマー インストール ウィザードを完了します。

タスク 3：再インストール後の仮想ドライブの無効化

再インストールステージで仮想ドライブを無効にしないことを選択していた場合は、次の手順で今すぐ実行することを推奨します。

1. CIMC インターフェイスにアクセスします。
2. [ストレージ (Storage)] > [仮想ドライブ情報 (Virtual Drive Info)] タブに移動します。
3. [ハイパーバイザー (Hypervisor)] チェックボックスをオンにして、[無効化 (Disable)] を押します。

Expressway ユーザ インターフェイスにアクセスする

電力特性評価チェックによるブート アップ時の遅延

電源特性評価テストは、CE1200 を接続して電源を投入したときに 1 回のみ実行されます。電源特性評価テストが実行し続けて、ブート時間にラグが発生する場合は、CIMC でこれが無効になっていることを確認します。手順は次のとおりです。

1. CIMC にログインします。詳細については、「[CIMC Serial Over LAN を使用した接続](#)」(20 ページ) を参照してください。
2. 左上隅にあるメニューの矢印をクリックします。
3. **[シャーシ (Chassis)] > [電源管理 (Power management)] > [パワー キャッピング設定 (Power Cap Configuration)]** に移動します。
4. **[電力特性評価の無効化 (Disable Power Characterization)]** をクリックします。
5. **[変更の保存 (Save Changes)]** をクリックします。

通知

テクニカル サポート

必要な情報がマニュアルで得られなかった場合は、<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html> の Web サイトを参照してください。このサイトでは、次のことが可能です。

- 最新のソフトウェアを実行していることを確認できます。
- シスコ テクニカル サポート チームから支援が得られます。

問題を報告する前に、次の情報を揃えるようにしてください。

- 製品の識別情報（必要に応じてモデル番号、ファームウェアバージョン、ソフトウェアバージョンなど）
- お客様の連絡先となる電子メール アドレスまたは電話番号。
- 問題の詳しい説明。

販売終了のためサポートされない可能性のある Cisco TelePresence 製品のリストを表示するには、http://www.cisco.com/en/US/products/prod_end_of_life.html [英語] にアクセスし、「TelePresence」の項まで下にスクロールしてください。

アクセシビリティ通知

シスコは、利用しやすい製品およびテクノロジーの設計および提供に取り組んでいます。

Cisco Expressway の Voluntary Product Accessibility Template (VPAT) は、ここで入手可能です。

http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/legal_regulatory/vpats.html#telepresence [英語]

アクセシビリティの詳細については、次を参照してください。

www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/index.html [英語]

Cisco の法的情報

Cisco の法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波数エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。本機器は、無線周波数エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、無線通信障害を引き起こす場合があります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きや設置場所を変えます。
- 装置と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに機器を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビの専門技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うことになります。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティングシステムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリックドメインバージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved.

Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または黙示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco の商標または登録商標

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワークトポロジー図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

印刷版と複製ソフトは公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices/) をご覧ください。

© 2018-2020 Cisco Systems, Inc. 全著作権所有 (All rights reserved)。

Cisco の商標または登録商標

Cisco および Cisco のロゴは、米国およびその他の国における Cisco およびその関連会社の商標を示します。Cisco の商標の一覧については、www.cisco.com/go/trademarks をご覧ください。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. 「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)。